

善養寺便り 第四十一号

令和七年秋号 発行 要谷山善養寺



寿 お知らせ

当善養寺後住江尻慶之は、この度ご縁があり、県内出身の方と入籍いたしました。一般のご家庭の方でお勤めをされています。

挙式は来年三月末の予定です。


ご報告が遅れましたが、一斉に皆様にお知らせしようと思いい、この寺報を出すまでは公表しておりませんでした。

左は二人から皆様へメッセージです。

十一月の報恩講法要にて、皆様に二人からご挨拶させていただく予定です。

今年の報恩講法要 是非ともお参りください

ごあいさつ



謹啓 初秋の候 皆様には益々ご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

この度私どもは結婚いたしましたことをご報告申し上げます。これもひとえに阿弥陀さまのお導きと、日頃より温かくお支えくださる皆様のおかげと深く感謝いたしております。

これからは夫婦力を合わせ、共に念仏のご縁をいただきながら歩んでまいりたく存じます。

未熟な私どもではございますが、今後とも変わらぬご指導ご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

まずは書中にて結婚のご報告と御礼を申し上げます。

合掌

令和七年十月

江尻慶之
莉彩

◆令和七年度仏教婦人会第二回仏教講演会

七月十一日(金)午後一時半から、第二回仏教講演会を開催しました。今回から谷川弘顕先生に代わり、高砂市網干善一郎師が当会ご講師としてお世話になります。



ユーモアをまじえ、一生懸命ご法話をしてくださりました。



◆令和七年度報恩講法要のご案内

別紙ご案内の通り、十一月一日(土) 二日(日)今年の報恩講法要を勤めます。報恩講法要は、親鸞聖人のご遺徳を偲ぶ、浄土真宗寺院にとって、最も大切な法要です。一日目は、音楽法要を勤めます。ご多用とは存じますが、どうぞご家族おそろいでお参りください。

お斎(お昼のお弁当)も用意しております。何卒よろしくお願いいたします。



親鸞聖人のご生涯



親鸞聖人は、一一七三年五月二十一日（承安三年四月一日）、京都・日野の里でご誕生、九歳で得度されました。

その後、比叡山で二十年間修行されましたが、迷いや苦悩から逃れることが出来ませんでした。

そこで山を下り、六角堂にこもり、やがて法然上人の門弟となられて、専修念仏に出逢われました。三十五歳の時、専修念仏停止によって越後に流罪となり、三十九歳赦免の後、妻恵信さまや家族とともに関東に移り、約二十年間布教を行われました。五十二歳の一二四年（元仁元年）は、主著「顕浄土真実教行証文類（教行信証）」を著された年とされます。

その後、京都に帰り、さらなる著述活動を行われ、一二六三年一月十六日（弘長二年十一月二十八日）九十歳でご往生されました。

親鸞聖人のことば

「教行信証」の最後に聖人は、中国、道綽禪師の「安樂集」という書物から次の言葉を引用されています。

「……前に生れんものは後を導き、後に生まれんひとは前を訪へ……」

（現代語訳）前に生まれるものは後のものを導き、後に生まれるものは前のものあとを尋ね

親鸞聖人のご生涯をお偲びし、お念仏を申す日々を送りながら、阿弥陀様のお話を聞くご縁をいただきましょう。

報恩講法要に是非お参りください



善養寺納骨堂について

当山納骨堂も年数が経ち、入れ替わり等があり、現在若干数ですが、空きが出来ております。

納骨壇についてお話がございましたら、お寺まで連絡お願いいたします。

なお、墓地とは違い、当山納骨堂は、当山の門信徒であることが条件です。そのことも含め、ご遠慮なくご相談ください。

続けてます。参加者募集中！

「お寺ヨガ」第二、第三金曜日十九時半から「善養寺コーラス」毎月第三金曜日十時半から

コーラスは、本年度も本山参拝を兼ねて、音御堂音楽会に参加予定です。一緒に本願寺で歌いませんか？

善養寺ホームページ↓
スマートフォンからでも
ご覧になれます



令和七年度の今後の予定

◆令和七年報恩講法要

令和七年十一月一日（土）二日（日）

ご講師 栗原一乗師

◆令和七年度仏教婦人会第三回講演会

令和七年十二月十二日（金）

ご講師 網干善一郎師

◆納骨堂年末大掃除

令和七年十二月二〇日（土）十時より

（予定）

◆令和八年元旦会

令和八年一月一日 午前九時より

◆令和七年度仏教婦人会第四階講演会

令和八年三月十三日（金）

ご講師 安方哲爾師

